

日本脂質栄養学会 公開シンポジウム

「コレステロール医療の大転換」

2016年3月20日（日）（入場無料）

お茶の水女子大学 共通講義棟2号館201室
（丸ノ内線「茗荷谷」駅より徒歩7分）

13:00 開場

13:30-13:40

日本脂質栄養学会からのご挨拶 小林哲幸

13:40-15:40 講演

浜崎智仁

「コレステロールは高い方が死ににくい」

板倉弘重

「コレステロールが高い人低い人、どこが違うのか」

奥山治美

「コレステロール低下剤と植物油が心疾患や糖尿病を発症させる機構」

（なお、発表順は変わる可能性があります）

15:40-15:50 休憩

15:50-16:40 質問／パネル討論

16:45 終了

司会：小林哲幸

（敬称略）

このシンポジウムのねらい：

日本脂質栄養学会（コレステロール委員会）はこれまでコレステロールの低下医療には意味がなく、スタチンでコレステロールを低下させるのは危険である

と訴え続けてきました。日本では、コレステロール値の高い方が、総死亡率が低いのです。

米国の ACC/AHA ガイドライン（2013 年）も、日本動脈硬化学会が掲げている「コレステロール目標値を設定し、それ以下に保つ」というガイドラインには根拠がない」と発表しました。さらに厚労省もコレステロール摂取量の上限を設けないようになりました。実は、2012 年の日本動脈硬化学会のガイドラインに使用されている、「総コレステロール値と冠動脈疾患死の関係を示す詳細なチャート」には、男性ではたったの 35 例程度の症例しか含まれていないことが判明しています（あまりに少なく、統計学上意味がありません）。このように日本では、コレステロールが危険であるとする根拠が崩壊してきました。新たな考え方が必要です。このシンポジウムでは、テレビでは公表されない重要な情報をご紹介します。

詳細は追ってこの What's new でご連絡致します。

日本脂質栄養学会 （コレステロール委員会）